



翌日は戸澤采紀さんが弾くサン＝サーンスのヴァイオリンソナタを収録



モニタースピーカー、電源ボックス、SSD内蔵のパソコンなど、複数の機器にボードを組み合わせ、入念に振動対策を実施



モニタールームでプレイバックの音の変化を中心に確認



ウェルフロートを設置すると生き生きとした演奏が蘇る  
フレージングや音色の変化が鮮明に浮かび上がってくる

「ウェルフロート」の取り扱い：ジークレフ音響(株)  
●取材協力：(株)オクタヴィア・レコード

場合も弾きやすさに影響はないと  
いう。

入念に振動対策を行っている。大  
容量SSDを内蔵するオクタヴィ  
ア・レコード自作のパソコンも2  
枚重ねたウェルフロートの上に載  
せているが、ここでもボードを外  
すと音の伸びや音場の見通しが後  
退してしまう。ボードを戻すと途  
端に生き生きとした演奏が蘇り、  
フレージングや音色の変化が鮮明  
に浮かび上がってきた。録音時だ  
けでなく再生時でもその音の変化  
は容易に聴き取ることができる。  
プレイバックでもステージと同じ  
ようにヴァイオリンの音色の変化  
やピアノの和音の響きが細部まで  
把握できるため、録音作業もスム  
ーズに進む。

ピアノ独奏の録音では鍵盤と反  
対側に設置したメインマイク(ノ  
イマンM50)だけでなく、楽器  
に近いスポットマイクなど計12本  
のマイクスタンドすべてにウェル  
デルタを使用。M50用の電源や  
マイクアンプ(ミレニアHV-3  
D)など、ステージ上の機材にも  
ボードタイプのウェルフロートを  
使っている。

翌日は戸澤采紀さんが弾くサン  
＝サーンスのヴァイオリンソナタ  
第1番の収録。高崎芸術劇場の芸  
術監督でもある指揮者の大友直人  
氏がプロデュースし、公演と並行  
して録音も行うT・S・H・o・t・シ  
リーズ第5回目の一貫として行われ  
たセッション録音だ。

今回の録音セッションにはジーク  
レフ音響の永田良二さんも参加  
し、セッティングの確認作業など  
を進めていた。永田さんは、戸澤  
采紀さんの録音に立ち会うために  
ホールを訪れていた大友直人監督  
にウェルフロートの動作原理を説  
明し、監督は「大きな音の変化に  
驚いています」とコメント。その  
場に居合わせた全員が音質改善の  
効果の大きさを実感していた。充  
実した録音セッションの成果をC  
Dで楽しめる日が待ち遠しい。

様々な変化は演奏者の位置でも確認  
できるそうで、ペダル操作も含め  
て演奏しやすさが損なわれること  
はないとのこと。背の高い通常タ  
イプではピアノ椅子の下に板を敷  
いて高さ調整をしているが、その

モニタールームの機材に設置  
実際の音の変化も確認できた

今回の録音セッションにはジーク  
レフ音響の永田良二さんも参加  
し、セッティングの確認作業など  
を進めていた。永田さんは、戸澤  
采紀さんの録音に立ち会うために  
ホールを訪れていた大友直人監督  
にウェルフロートの動作原理を説  
明し、監督は「大きな音の変化に  
驚いています」とコメント。その  
場に居合わせた全員が音質改善の  
効果の大きさを実感していた。充  
実した録音セッションの成果をC  
Dで楽しめる日が待ち遠しい。

ウェルデルタを使うと一音一音の  
粒立ちが明瞭になり、近くで聴い  
たときだけでなく、離れた位置で  
も音色や表情の変化を聞き取りや  
すくなる。音の伸びがあり、音色  
をコントロールしやすいなど、同  
様な変化は演奏者の位置でも確認  
できるそうで、ペダル操作も含め  
て演奏しやすさが損なわれること  
はないとのこと。背の高い通常タ  
イプではピアノ椅子の下に板を敷  
いて高さ調整をしているが、その

モニタールームの機材に設置  
実際の音の変化も確認できた

今回の録音セッションにはジーク  
レフ音響の永田良二さんも参加  
し、セッティングの確認作業など  
を進めていた。永田さんは、戸澤  
采紀さんの録音に立ち会うために  
ホールを訪れていた大友直人監督  
にウェルフロートの動作原理を説  
明し、監督は「大きな音の変化に  
驚いています」とコメント。その  
場に居合わせた全員が音質改善の  
効果の大きさを実感していた。充  
実した録音セッションの成果をC  
Dで楽しめる日が待ち遠しい。

場合も弾きやすさに影響はないと  
いう。

場合も弾きやすさに影響はないと  
いう。

場合も弾きやすさに影響はないと  
いう。

場合も弾きやすさに影響はないと  
いう。

場合も弾きやすさに影響はないと  
いう。

場合も弾きやすさに影響はないと  
いう。

# “吊り構造式メカ”ウェルフロートは プロの録音現場でも活躍中

Text&Photo by  
山之内 正 Tadashi Yamanouchi



尾城杏奈さん。東京藝大大学院在学中のピアニスト。10月20にデビューアルバム「尾城杏奈IN CONCERT」をリリースした。「大学院で研究しているスクリヤービンのソナタがこのアルバムのテーマです。スクリヤービンならではの響き、和音の色合いの変化を表現することに魅力を感じています」

前項でも紹介、ジークレフ音響が手掛ける独自の“吊り構造式メカ”によるウェルフロート・シリーズ。同社のアイテムはオーディオファンだけでなく、プロの録音現場や演奏家の間でもニーズが高まりつつあるという。本項では実際にその現場取材すべく、山之内 正氏がオクタヴィア・レコードの最新録音の現場を訪問。ここで実際にどのような場所に、どんな製品が使用されているのか?エンジニアや演奏家がどんな効果を感じているのか?本邦初公開のレポートをお届けしよう。

高崎芸術劇場で10月に行われた2つの録音セッションを見学する機会があった。どちらもオクタヴィア・レコードの最新録音で、尾城杏奈のピアノ独奏、そして戸澤采紀(ヴァイオリン)と林絵里(ピアノ)による室内楽をそれぞれ数日間かけて収録する企画だ。アルバムの発売は2022年を予定しているが、まずは録音の速報をお届けしよう。

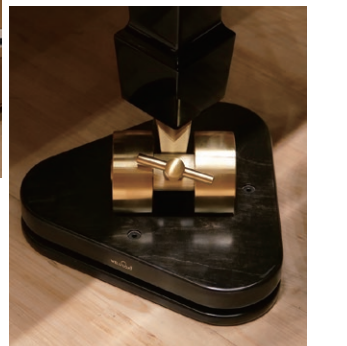
この2つの録音では、オクタヴィア・レコード初の取り組みとして、ジークレフ音響のインシュレーター「ウェルフロート」をマイクスタンドや電源機器など、ステージとモニタールームのさまざまな録音機材に使用している。さらにグランドピアノもピアノ用の



録音セッションが行われた高崎芸術劇場



グランドピアノは3本の脚それぞれにフルコンサートグランドピアノ用のウェルデルタを使用。収録後には高さを抑えたタイプに代えた場合や、完全に取外した状態の音も聴き比べた



ノイマンM50用の電源やマイクアンプ(ミレニアHV-3D)など、ステージ上の機材にもボードタイプのウェルフロートを使用



オクタヴィア・レコードの江崎友淑氏がメインマイクのチェックをする様子



メインマイクだけでなく、スポットマイクなど計12本のマイクスタンドすべてにウェルデルタを使用